

第1講 古代ギリシア史の構造

ヨーロッパの中のオリエンタリズム

E・サイード、『オリエンタリズム』、平凡社、1986年(Edward, W. Said, *Orientalism*,
New York, Pantheon Books, 1978)

西洋の東洋に対する思考様式

先進性と後進性→支配と被支配

同時代の地平面上における先進性と後進性の併存

時系列上の先進性と後進性の継起

偉大な過去

後進的な同時代

という対比

オリエントの法治主義・公平性・政治の恣意性の欠如

オクシデントの保護・支援・代理統治の正当化

近代ヨーロッパの中のオリエンタリズム

偉大な過去：古代史偏重のギリシア史

世界史の教科書の扱い

古代史：311行

先史時代 37行

古典期 260行

ヘレニズム時代 14行

中世史：10行（西方教会とギリシア正教会の分裂・ビザンツ帝国における古
代ギリシア文化の継承）

近代史：5行（独立戦争）

現代史：11行（第1次バルカン戦争・希土戦争・内戦とトルーマン=ドクトリ
ン・1975年の民主制への移行）

『改訂版 詳説世界史B』 山川出版社 2012年より

近代西欧文明の源流

科学的合理主義

民主主義

リアリズムと理想主義的美

古代ギリシアを人類史における偉大な画期と位置づける

古代以降のギリシア史への関心の薄さ

近現代ギリシア史の周辺化

ロマン主義的風潮の中の理想化と現実との較差

ファルメライヤーのスラブ人説：過去の偉大さとの断絶

古代ギリシア人と現代ギリシア人には血の繋がりはない

バーソロミューの自然環境説：自然環境の劣化が物質生活の水準を引き下げる

近現代のギリシアを劣ったものと位置付ける点では 19 世紀の研究者も 20 世紀の研究者も変わりはない

現代ギリシアのナショナリズム

誇るべき古代史とその遺産→西欧世界におけるギリシアの特権的地位を保証

西欧世界への帰属意識

トルコとの対立意識・メガリ=イデアの遺産

EU 帰属

同時代におけるオリエンタリズムの再生

現代ギリシアの問題（「ギリシア問題」）

人口 1100 万人

労働人口 500 万人

公務員 100 万人(25%:日本 6.7%;OECD 平均 15%;ノルウェー 29%)

必ずしも高すぎるということではない

若年の失業率 25% (日本 6.3%)

貧弱な産業インフラ・・・公務員志向と海外流出

年金 52 万円/月→25 万円/月 (日本 平均 基礎年金 5 万 4544 円+厚生

年金 14 万 5596 円=20 万 140 円/月)

現役時の 96%

「蟻とキリギリス」のキリギリスとしてのギリシアイメージ
財政赤字

2009年10月 12.7% (EUの基準 3%未満)

経済的後進性

税収 法人税 3% (日本 歳入比 8.4%; 税収比 18.6%)

税負担の不公平

所得税 20.6% (日本 税収中 50%)

売上税(消費税) 消費課税 37.8% 不公平 脱税多し 脱税率 23%
(日本 税収中 消費課税 35%)

資産課税 5.6% (日本 税収中 資産課税 15%)

富裕者層の税負担・・・軽い

中下層民・・・・・・・・・・重い

地下経済 国内総生産の3割

脱税の温床

観光産業への依存

輸出 100億ドル

輸入 300億ドル

海運業・観光業・移民からの送金 200億ドル

財政再建のインフラの欠如

2009年10月 ギリシア経済危機の始まり

政治家への不信(特定の家系からの政治家排出)

地縁・血縁社会→コネの利く社会

国家財政の歳入・歳出欠陥→外国借款への依存

税負担の不公平: 富裕者の税負担回避と庶民

観光産業への過度な依存

産業の衰退

若者の失業→海外流出

西欧へのあこがれと反感

ロシアへの親近感
中国資本の進出
シリア難民の通過点

歴史研究の文化的環境の変化と歴史研究の変化

1. 古代史研究における近代の影響

近代ヨーロッパにおけるギリシア国家の地位の低さ・評価の低さの反映

財政破綻国家ギリシア、EUのお荷物などの昨今のメディアの見出しや記事
汚職と欺瞞と経済的な弱さ

『エコノミスト』誌（2009年12月19・26日合併号）

記事見出し「ギリシャの債務危機：柱を支えようと腐心するパパンドレウ首相」

記事「財政赤字と公的債務の大きさについて、何とか欧州連合（EU）の目をくらましてきた。」

記事「（パパンドレウ首相が）12月10日の欧州連合（EU）首脳会議では、ギリシャは汚職まみれであると認めて、他の首脳たちに衝撃を与えた。」

『エコノミスト』誌（2010年3月27日）

記事見出し「ギリシャ救済の本当のコスト欧州の支援策は「安全網」にならない」

記事「ギリシャはユーロ建て国債を発行する数多くの国の中で最も信用力の低い国だ。」

記事「浪費癖があるにせよ弱い国」